

■1 IHOの世界

1.1 IHOとは？

まずは前著を読まれたことがない方にIHOとは何かを簡単に説明しておこう。

IHOとは Independent Home Office の略であり、独立系ホームオフィスとも言える。これはSOHO (Small Office Home Office) と区別するために私が作った造語である。

一言で言えば、IHOは独立して家で仕事をしているライフスタイルである、と言える。

IHOの特徴を上げると以下の4つになる。

1. 在宅で仕事をしている
2. ITを仕事の基盤としている
3. その仕事で自立している
4. 会社員・下請けではない

1の在宅で仕事とは「家をビジネスの核としている」という意味である。ときには外を仕事場にしてもよいがあくまで核は自宅にある。

2のITを仕事の基盤としている、という部分は現代社会では珍しくはなくなった。インターネットを軸にして仕事を展開する、ということで家を仕事の核に出来る。

3の「自立」という要件は重要である。つまり副業ではない。起業であり、独立である。IHOはライフスタイルであり、そのビジネスで生活している。生活そのものを変えるのがIHOである。

4はSOHOとの違いを明確にする。会社員として在宅で仕事をしているのでもなければ、どこか一社から下請的に仕事をもらっている事実上の会社構成員でも無い。あくまで独立して仕事をしていることに意味がある。

さらにあげるなら、IHOはベンチャービジネスとも異なる。ベンチャービジネスでは会社の規模を大きくし、人を雇い最終的には大企業を目指す。しかし、それはある意味ライフスタイルは変わらない。平日会社に出社し、休日には仕事を休む。そうではなく、IHOは生活そのものが変わる。

1.2 IHOのライフスタイル

では、IHOはどういうライフスタイルを取るのだろうか。

まず、IHOは「出社」をしない。つまり通勤がない。家が仕事場であるから当たり前ではあるが、これは通常の会社員とは大きな違いである。

IHOでは、ある意味、仕事の時間というものが明確ではない。仕事をいつもしているようでもあるし、いつも休みのようでもある。休日にしたければいつでも出来るし、逆に世間が休みの日に働いても良い。仕事の時間は完全に自由である。

もちろん、朝起きる時間、夜寝る時間も自由。自分にあった生活をすればよい。

会社というものに縛られて生きてきた生活に対し、IHOでは自分を縛る物は原則自分だけである。究極に自由な生活と言える。

ただ、仕事をしなければ収入はない。この点はシビアである。会社員は毎月の収入があるが、IHOでは自分が仕事をした分が収入になる。しかし、考えてみればある意味、これも当たり前である。最近では会社員でも実績主義での報酬があるが、例えば正社員である、ということだけで（あるいは年齢が上、ということだけで）より働く人よりも多くの報酬をもらう人もいる。会社員は働いた分だけ収入になる、とはとても言えない。